

3. 平成30年度の事業内容

(1) 河川関係

狩野川は、伊豆半島中央部の静岡県伊豆市の天城山系に源を発し、大小の支川を合わせながら北流し、田方平野から駿河湾に注ぐ幹川。流路延長46km、流域面積852km²の一級河川です。

昭和42年6月に一級河川として指定され、このうち本支川（狩野川24.9km、黄瀬川2.7km、柿田川1.2km、大場川2.6km、来光川1.5km、柿沢川0.9km）の直轄管理区間（計33.8km）及び狩野川放水路（3.0km）について、河川改修及び維持管理を行っています。

平成30年度的主要事業内容

○狩野川における流下能力不足箇所の解消に向けて

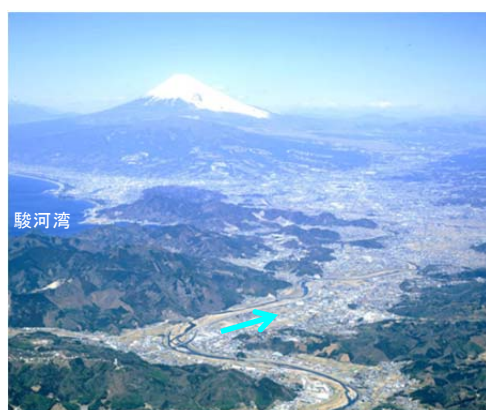
- ・平成27年9月の関東・東北豪雨を踏まえ、策定した「水防災意識社会 再構築ビジョン」の取組の一環として、緊急的な対策が必要とされる流下能力不足区間（沼津市大平地区）において引き続き、築堤及び樋管改築工事を実施します。
- ・また、流下能力が不足している黄瀬川（長泉町本宿地区）において、治水対策として築堤工事を実施します。

○狩野川下流部における治水安全度の向上にむけて

- ・資産が最も集中している下河原地区において、堤防高・堤防断面不足、流下能力不足区間へ築堤・護岸等の治水対策工事を実施します。

○防災ステーションの整備にむけて

- ・大規模出水や集中豪雨等による多様な水害等に備えるべく、円滑な水防活動や迅速な災害復旧を行うために必要となる塚本防災ステーション整備を引き続き実施します。

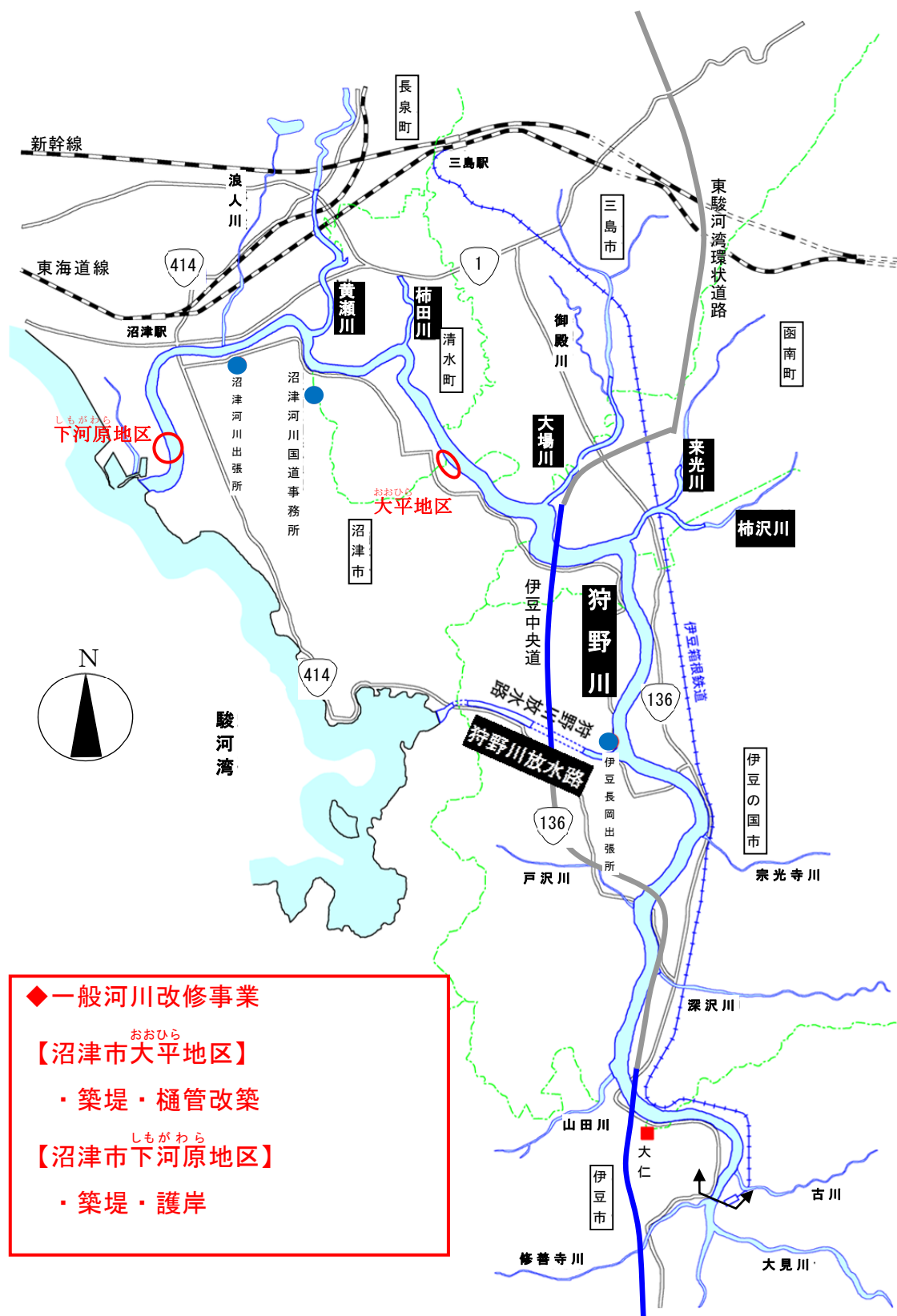


伊豆半島上空から見た狩野川



河口部と沼津市街地

平成30年度 沼津河川国道管内主要河川事業 位置図



一般河川改修事業

河川資料①

静岡県沼津市大平地区・沼津市下河原地区

沼津市大平地区

平成30年度は大平地区の堤防高の不足区間において築堤護岸・樋管改築を行います。

- ・現 状：大平地区は堤防高不足や流下能力不足の箇所があり、また、内水被害が頻発する地区であるため洪水時には甚大な被害が生じるおそれがあります。
- ・対 策：平成28年度より継続的に堤防整備や樋管改築を実施しています。

【大平地区の整備説明図】

事業位置図



沼津市^{しもがわら}下河原地区

平成30年度は下河原地区の堤防高の不足区間において築堤・護岸整備を行います。

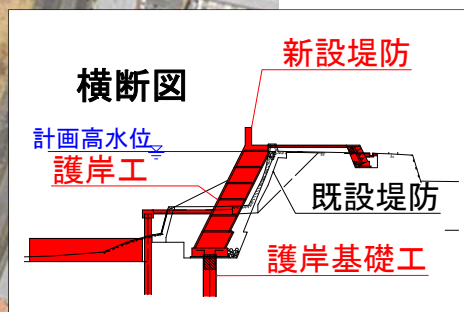
- ・現 状：下河原地区は堤防高・堤防断面不足や流下能力不足の箇所があるため、洪水時には甚大な被害が生じるおそれがあります。
- ・対 策：平成20年度より継続的に堤防整備を実施しています。

【下河原地区の整備説明図】

事業位置図



事業箇所図



狩野川総合水系環境整備事業

河川資料②

静岡県駿東郡清水町・田方郡函南町

柿田川自然再生事業

平成30年度は柿田川自然再生事業として外来種駆除等を実施します。

- ・概要 要：柿田川は、富士山麓の湧水を水源とし、湧水環境に依存する貴重な生物（絶滅危惧種27種）が生息する特有の自然環境を形成しており、平成23年9月21日には、国指定文化財「史跡名勝天然記念物」として登録されています。しかし、近年、倒木や法面浸食による土砂の流出・堆積、本来生息しない植物（ツルヨシなど）の繁茂や外来種（オオカワヂシャなど）の侵入など、柿田川特有の生態系に影響を与える課題が発生しています。
- ・実施事業：貴重な水生植物が安定して生息・生育できる自然環境や景観の保全・再生を図るため、地域や関係者と一体となって、柿田川自然再生計画に基づき、堆積土砂の除去や外来種駆除などの自然再生事業を進めます。



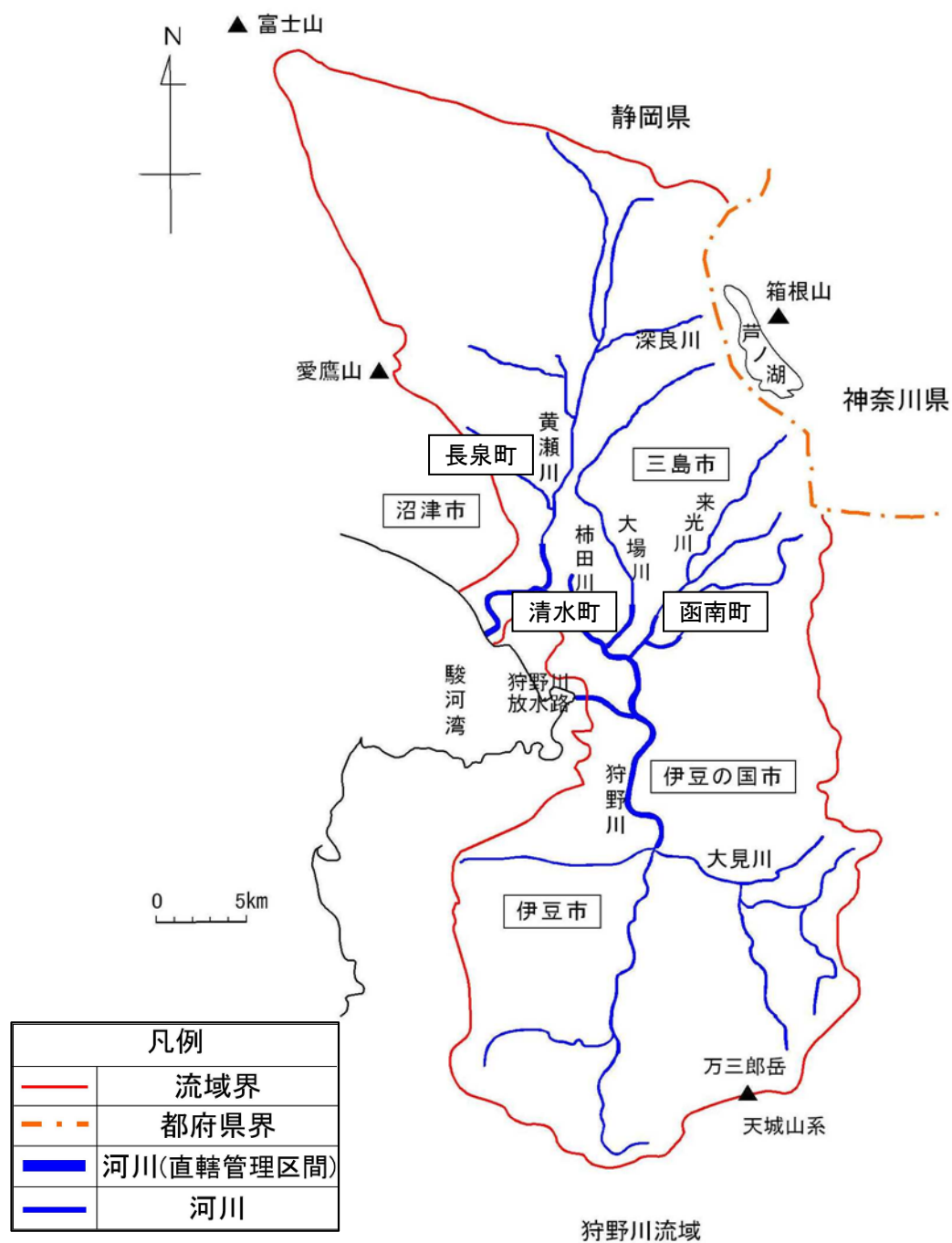
狩野川の適正な維持・管理

河川資料③

狩野川直轄管理区間全域

狩野川直轄管理区間の洪水の安全な流下と適正な河川利用等のため、巡視を行うとともに河川管理施設の点検・補修等を実施します。

直轄管理区間



河川の巡視

河川や堤防等に異常がないか、河川空間の利用時に危険はないか、ゴミ投棄などの不法行為はないかなどを把握するため、日常の巡視を行うとともに、台風などの出水時や、地震時等の緊急時に巡視を行います。



河川の巡視
(現地でタブレット端末を活用した巡視状況登録)



河川敷の不法投棄



不法投棄対応
(警告看板の設置)

河川管理施設の点検

堤防及び樋管・排水機場等の河川管理施設に異常がないか点検を行います。



堤防の点検



樋管ゲートの点検

狩野川放水路分流堰等の操作

狩野川放水路分流堰、排水機場、樋管、陸閘等の適切な操作を行います。



放水路分流堰の放流状況

河川管理施設の補修等

傷んだ堤防や護岸の補修、川の流れを阻害する樹林の伐開、出水で流れ着いた塵芥の撤去を行います。



樹木の伐開

水質事故対策

突発する水質事故に対処するため、関係機関と連携を取りながら必要な対策を行います。



水質事故対応の訓練状況

(2) 砂防事業 ～ 生命と財産を土砂災害から守るために ～

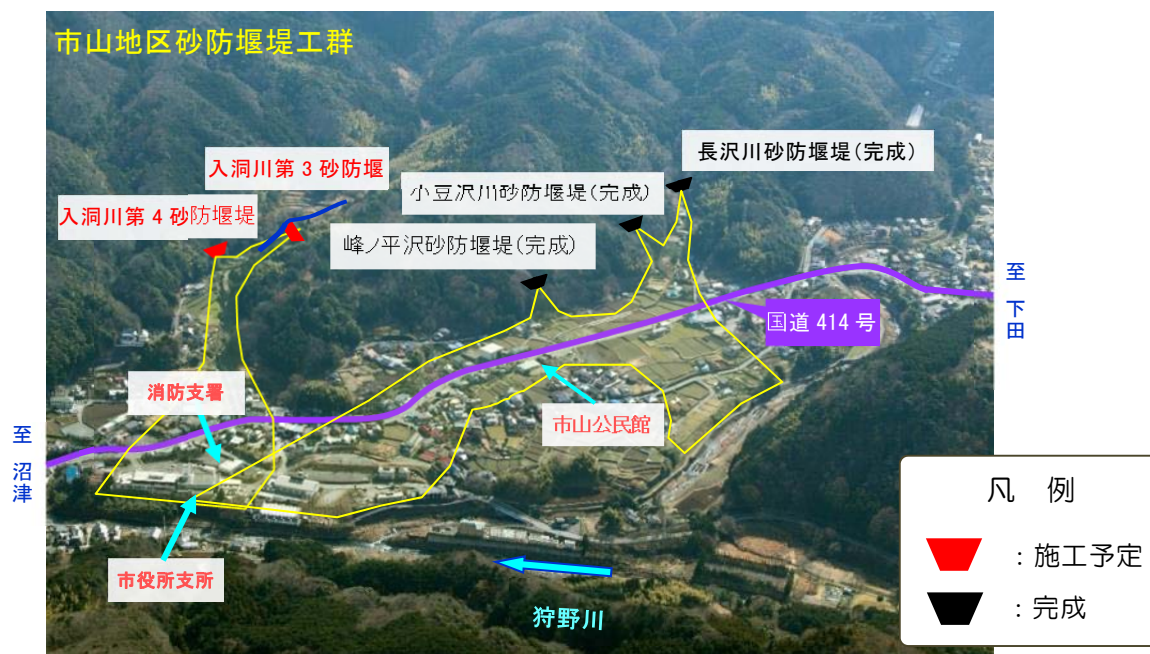
砂防事業は、土石流などの土砂災害から住民の生命、財産等を守るとともに、狩野川下流域への多量の土砂流出による河床上昇に伴う洪水氾濫を防止・軽減するために上流域において土砂の生産、流出を砂防施設によって調節することを目的としています。

当事務所では、昭和33年9月の狩野川台風を契機に、昭和34年から直轄砂防事業を実施しており、狩野川河口から約27.8kmの修善寺橋を起点とした上流域約270km²の狩野川流域（修善寺川流域を除く）において、砂防堰堤、溪流保全工の整備等の砂防事業を実施しています。

また、伊豆東部火山群の火山噴火緊急減災砂防調査も実施しています。

平成30年度の主な事業内容

- 「鹿群山砂防堰堤」の本体工事を継続します。
- 市山地区砂防堰堤工群「入洞沢第3・第4砂防堰堤」の本体工事を継続します。
- 上白岩地区砂防堰堤工群「奥の沢第2砂防堰堤」の用地調査、買収を継続します。
- 松沢川砂防堰堤工群「松沢川第1砂防堰堤」の用地調査、買収に着手します。
- 砂防事業の管内において溪流を監視する機器を整備します。
- 伊豆東部火山群の火山噴火緊急減災砂防調査を実施します。

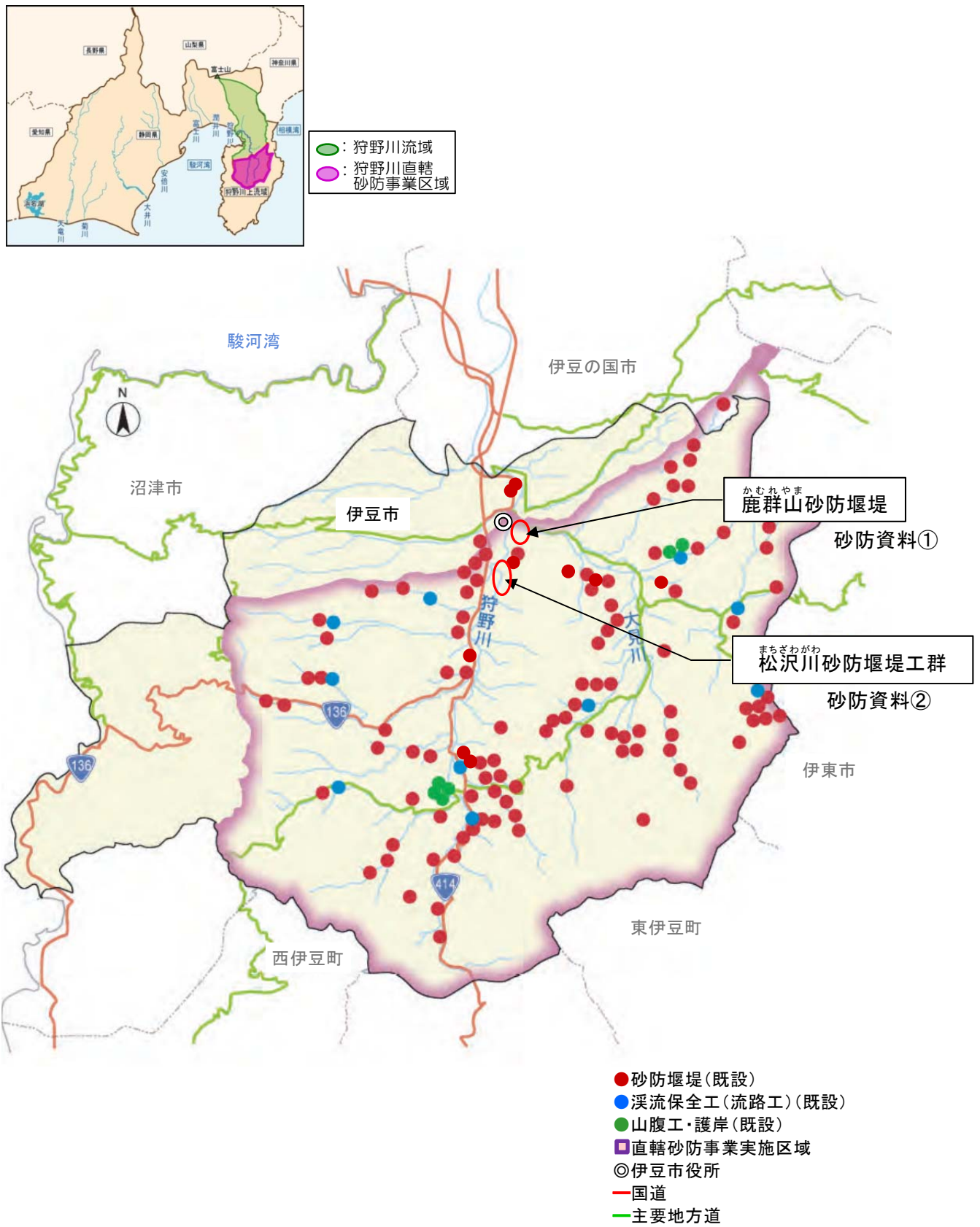


土石流の直接的な被害から避難所、人家、国道等を保全する

「市山地区砂防堰堤工群※」

※市山地区を保全するには、複数の溪流があるため「堰堤群」として整備する必要があります。

砂防事業位置図



かむれやま

鹿群山砂防堰堤（継続）

砂防資料①

かどの
静岡県伊豆市加殿

かむれやま

平成30年度は、鹿群山砂防堰堤の整備を継続します。

かむれやま
鹿群山で想定される土石流の氾濫範囲には、要配慮者利用施設（デイサービス）、国道136号の代替機能を持つ県道349号、人家等があることから、これらを土砂災害から保全するため砂防堰堤の整備を進めます。



凡 例

▲ : 整備予定

まちざわがわ

松沢川砂防堰堤工群（新規）

砂防資料②

かじやま
静岡県伊豆市梶山

平成30年度は、^{まちざわがわ}松沢川砂防堰堤の整備に着手します。

^{まちざわ}松沢川で想定される土石流の氾濫範囲には、新たに建設されるライフライン（広域処分施設）や国道136号の代替機能を持つ県道349号線、家屋等があることから、これらを土砂災害から保全するための砂防堰堤の整備に着手します。

平成30年度は、事業着手に必要な用地調査、買収を実施します。



凡 例

▲ : 計画地

火山噴火緊急減災砂防調査（継続）

砂防資料③

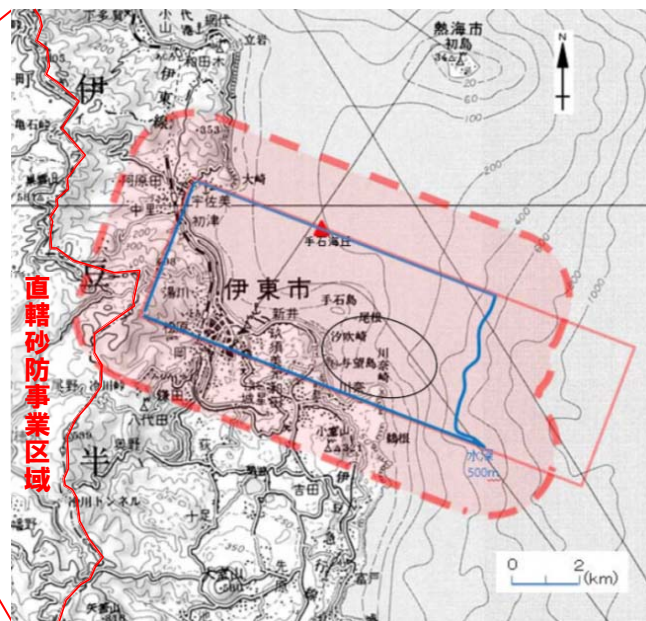
伊豆東部火山群

平成30年度も伊豆東部火山群の火山噴火緊急減災砂防調査を実施します。

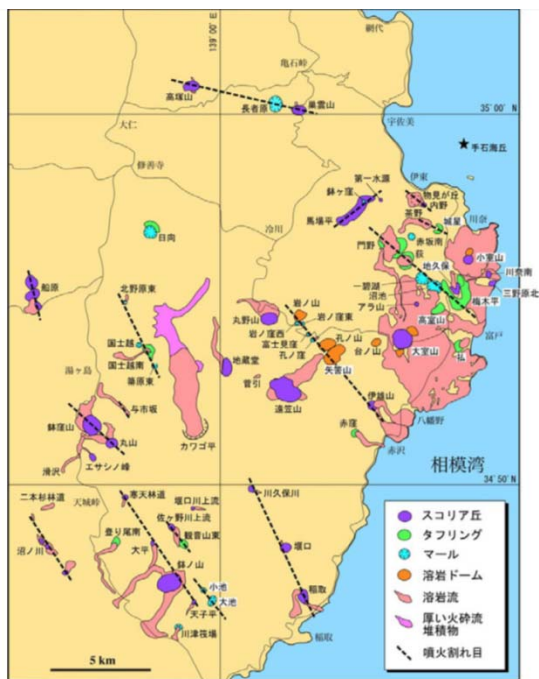
伊豆東部火山群における警戒避難体制整備のため、火山砂防ハザードマップ及び緊急減災砂防計画策定に資する降灰後土石流氾濫シミュレーション等基礎調査を実施します。



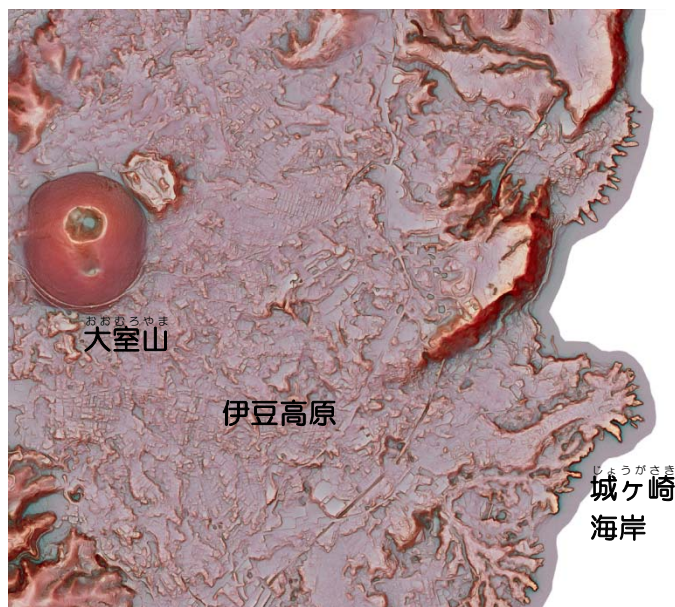
-  海上や陸上に影響を及ぼす噴火が発生する可能性のある範囲
-  噴火の影響が及ぶ可能性のある範囲



伊豆東部火山群の火山防災対策検討会報告書より



伊豆東部火山群の分布図
伊豆東部火山群の火山防災対策検討会報告書より



火山と隣り合わせの地域（赤色立体図で見る大室山と伊豆高原）

火山噴火により流出した溶岩流が伊豆高原を造り、海に流れ拡がった様子から、火山と隣り合わせの地域であることがよく分かる。

(3) 海岸関係

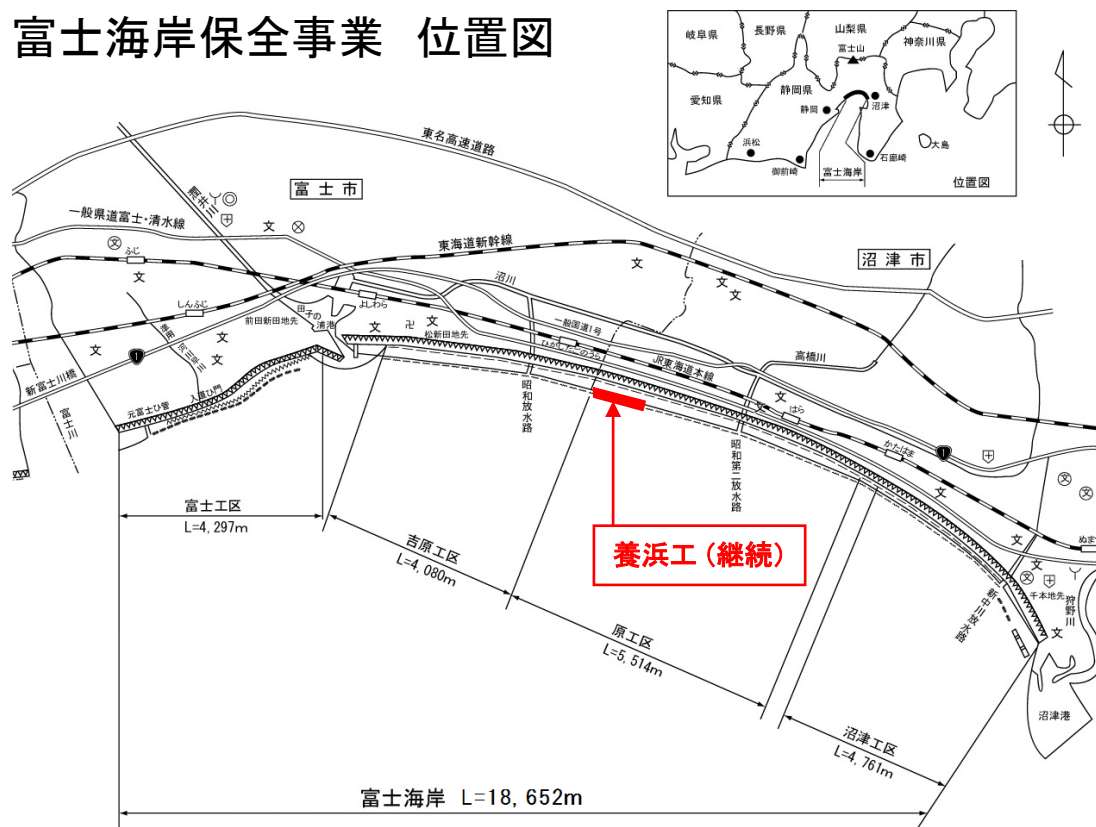
富士海岸は、昭和41年の台風26号による越波により、甚大な被害を受けたことを契機に、背後地の安全を確保するため、昭和42年6月から直轄海岸事業を実施しています。

沼津河川国道事務所は沼津港西側から富士川河口までの延長約19kmを担当しています。

平成30年度の主な事業内容

- ・海岸侵食に対応すると共に、土砂動態を維持・確保するため、養浜工を継続します。

富士海岸保全事業 位置図



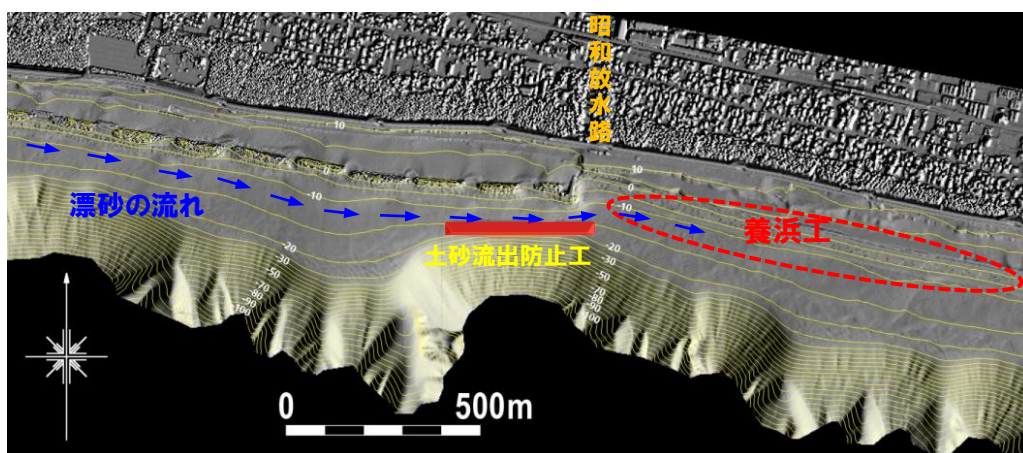
富士海岸直轄海岸保全施設整備事業

海岸資料①

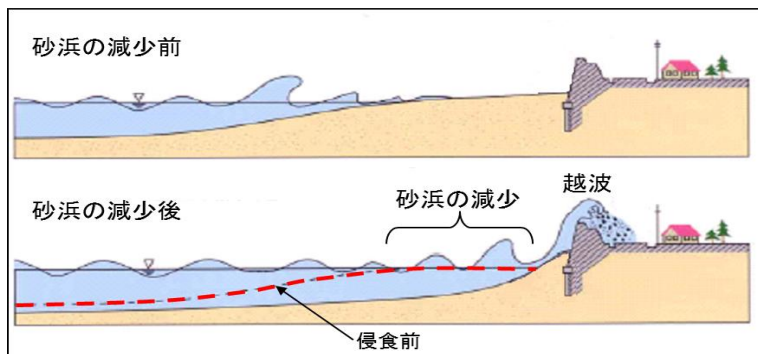
富士工区～沼津工区 静岡県沼津市・富士市

平成30年度は、汀線を維持し越波に対する安全性を保つために養浜工を実施します。

- ・現状：富士川からの供給土砂の減少や田子の浦港防波堤などによる沿岸漂砂の遮断等により海岸侵食が顕著となっています。
- ・対策：侵食傾向の著しい吉原工区にて、汀線を維持し越波に対する安全性を保つために養浜工を実施します。



浜幅が減少すると高波が堤防を越えやすくなる



【主な事業内容】

●養浜工 $V=40 \text{ 千} \text{ m}^3$

